

兵庫県防災ツーリズム戦略

提案書

令和6年2月

株式会社 JTB 神戸支店

アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

4. 関連市場の調査及び考察

5. 防災・復興資源の活用戦略

6. アクションプラン

アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

4. 関連市場の調査及び考察

5. 防災・復興資源の活用戦略

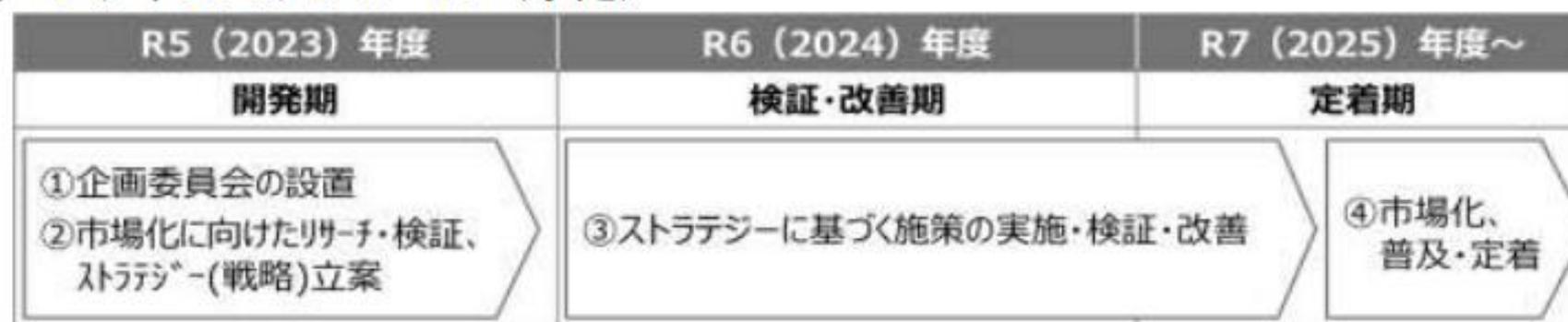
6. アクションプラン

0. 事業概要

0. 事業概要

「令和5年度防災ツーリズム戦略立案業務委託仕様書」に則り、本事業の概要は以下のように設定する

- 背景
 - 兵庫県では、「防災」×「観光」で「楽しみながら防災を学ぶ」、「地域の魅力を堪能する」という相乗効果により、持続可能な「防災意識の向上」と「地域の活性化」の両立を図ることで、防災ツーリズムの推進に取り組んでおり、防災ツーリズムの普及・定着により、2025年度の大阪・関西万博の開催を契機として、阪神・淡路大震災からの「創造的復興」「防災先進県ひょうご」としての取組を改めて国内外に発信することを目指す。
- 本業務目的
 - 令和5年度は、防災ツーリズムの市場化を見据えたリサーチ（調査）・検証を行い、その結果を踏まえて、防災ツーリズムを展開するストラテジー（戦略）を立案する。
- テーマ
 - 県内の防災関連資源（防災学習施設、防災拠点施設、震災遺構等）と観光資源での体験を通じて、地域の魅力を体験しながら、命を守る知識を学び、防災意識を高める。
- ターゲット
 - [ターゲット1] 中高生の修学旅行、教育旅行
 - [ターゲット2] 企業・行政研修
- スケジュール
 - (3) 3ヶ年のスケジュール（予定）



アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

4. 関連市場の調査及び考察

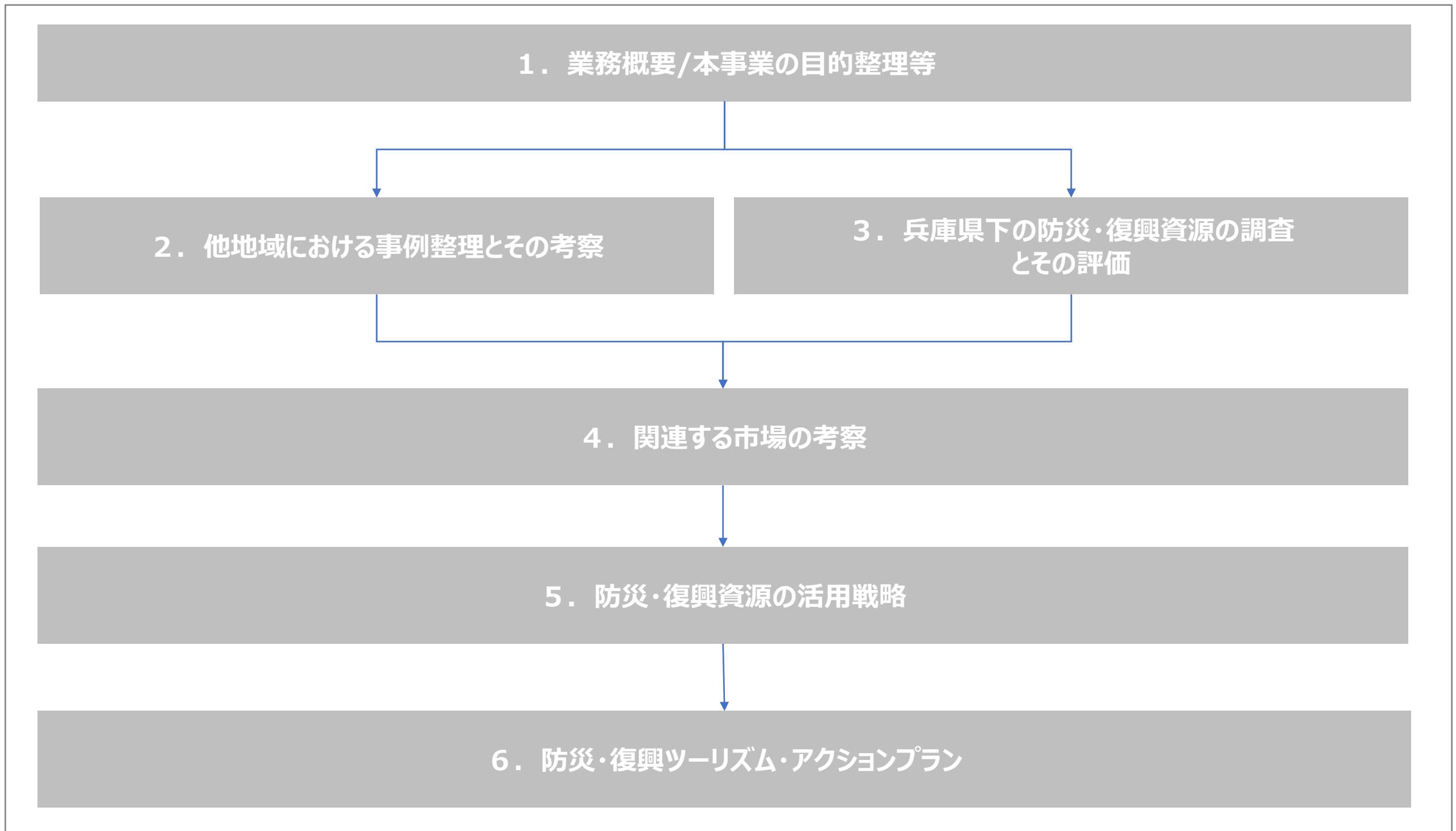
5. 防災・復興資源の活用戦略

6. アクションプラン

1. 本業務の目的整理及び進め方

1-2. 本業務の進め方(提案書p7)

リサーチフェーズにおける防災ツーリズム・シーズと市場ニーズの照らし合わせ及び、リサーチツアーによる検証から戦略を立案する流れを本業務の基本方針と考える



アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

4. 関連市場の調査及び考察

5. 防災・復興資源の活用戦略

6. アクションプラン

2. 他地域における事例整理とその考察

2-1. 他地域の選定根拠及び、整理の手法(提案書p8.9)

震災遺構の活用にいち早く注力している点、国策として防災ツーリズムに向けた取組が多数ある点から東日本大震災を比較対象に選定。整理の手法としては4象限マトリクスによる分析を用いる

他地域の選定根拠

- ① 被災状態からの復旧のみならず、震災遺構を活用した「復興」を目途として交流人口増大への取組にいち早く注力されているため
- ② 時限省庁が設立され、国策として防災・復興ツーリズムに向けた取組が多くなされているため

東日本大震災
を抽出

整理の手法

下記定義により四象限のマトリクス分析を行う。
X軸を「復興・伝承」～「防災・減災」とし、Y軸を「マクロ的」～「ミクロ的」とする。
それぞれを下記により、定義。

- ・「防災・減災」=過去の災害についてではなく、これから来る災害への備えとする。
- ・「復興・伝承」=過去にあった災害の被害を次代に伝えていく取組や、被災者の追悼などの取組とする。
- ・「マクロ的」=まちづくり等の「ソーシャル」な取組とする。
- ・「ミクロ的」=ひとつの「施設」や「拠点」等の復興あるいは防災性向上などの「パーソナル」な取組とする。

アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

4. 関連市場の調査及び考察

5. 防災・復興資源の活用戦略

6. アクションプラン

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

3-2. 東日本大震災と兵庫県下の防災・復興資源(提案書p73)

東日本大震災の防災ツーリズムと兵庫県下の防災・復興資源を比較すると以下のような強み・弱みが考察された

強み

- 地理的要素(USJ、空港、高校生の進学先選択率等)
- 内閣府も認める防災・減災教育のシンボル(人と未来防災センター)の存在
- BCP策定に取り組む大企業が豊富(BCP取組事例が多い)

弱み

- スルーガイド(福島県におけるフィールドパートナー)の不足

• 防災・減災教育資源及び、観光コンテンツ活用

- 復興・伝承に強みを持つ東日本大震災に対し、単純に施設内容が充実した防災・減災教育施設を活用することで体系的に学習可能且つ、体感を通じて学習可能なツーリズムとして差別化が可能と想定される。また、ネスタリゾート神戸や竹野こども体験村のキャンプ体験等の近隣コンテンツと掛け合わせることで、娯楽性の高い観光行動の中でも、シームレスに防災に触れることが出来るツーリズムの提供が可能であると想定される。

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

3-3. 兵庫県下の防災・復興資源活用における課題と活用方策(提案書p75)

東日本大震災との比較からは、資源同士のつながり、人材育成、受入キャパシティが現状の兵庫県が抱える課題であると考えられる

発見・課題

活用方策

防災・復興資源が単発となり、他資源との関連性が希薄

- 東日本大震災では産業再生に係る資源が訪問先になっている一方で、兵庫県は個々は非常に魅力的であるにも関わらず、他資源と繋がりを有する資源が少ない。
- 災害というテーマを共有した資源であるからこそ、その「ストーリー」で結んだツーリズムの構築が効果的である。

地域観光との関連性が少ない

- 代表的な災害である阪神淡路大震災は近年稀に見る都市型災害であり、その特性から企業、商業施設、商店街等との繋がりが構築しうる。
- 東日本大震災が復興した商店街や道の駅を立ち寄り先に加えている様に、商業的な消費を喚起しうる面的ツーリズムの構築が効果的と考えられる。

人的資源の活用と持続的育成

- 面的観光を進めていくうえではガイド・語り部の存在が重要となる。
- 福島県ホープツーリズムにおけるフィールドパートナーに倣い、「ひょうご防災リーダー」の様な人的資源を活用し、かつ持続的な育成の仕組みづくりに繋げる方策が必要となる。

受入キャパシティの不足

- 課題のひとつとして挙げられるのは、各施設の受入キャパシティの不足である。
- 教育旅行では200～300名を超える規模での入込も考え得る一方で、現状の各資源のキャパシティはそれに及んでいないため、他施設とグループに分けた受入を考慮する必要がある。

3. 兵庫県下の防災・復興資源調査とその評価

(参考) 主要施設における受入キャパシティ(提案書p75)

兵庫県下の主要な防災・復興資源における受入キャパシティは以下の通りである

| | | 施設名称 | 受入キャパシティ等 |
|-----|------|--------------------|--|
| 類型Ⅱ | 1-1 | 人と防災未来センター | ・ 団体・個人ともに観覧時間各回120名まで |
| | 1-2 | 兵庫県広域防災センター | ・ 10名～50名まで ※体験は20名様の場合の標準所要時間をベース |
| | 1-3 | E-ディフェンス実大免震試験施設 | ・ 講義は30名程度、施設見学は10～15名程度 |
| | 1-13 | 仁川百合野町地区地すべり資料館 | ・ 最大60名まで受入実績あり ・ 1Fガイダンスシアターは最大30名まで |
| | 1-15 | 豊岡復興建築群 | ・ 講和は会場次第だが、街歩きとしては1度のガイドで10～15名程度 |
| | 1-16 | 北淡震災記念公園 | ・ 300名程度の受入実績あり |
| | 1-17 | 福良港津波防災ステーション防潮施設等 | ・ 現在は人数制限を行っており、20名程度 ・ 人数制限前は40名程度 |
| 類型Ⅲ | 1-4 | 三木総合防災公園 | ・ 100名程度 |
| その他 | 2-8 | あすパ・ユース震災語り部隊 | ・ 語り部ガイド1名につき5～7名程度 1回の受入最大は20～30名程度 |
| | 3-6 | 灘五郷 | ・ 蔵にもよるが、菊正酒造の場合30～40名程度。 |
| | 1-14 | 城崎温泉 | ・ 講和は会場次第だが、温泉街歩きとしては1度のガイドで10～15名程度 |
| | 2-1 | 新長田の商店街の復興 | ・ ふたば学舎震災体験学習としては15名～290名まで受入可能 |

アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源整理及び考察

4. 関連市場の調査及び考察

5. 防災・復興資源の活用戦略

6. アクションプラン

4. 関連市場の調査及び考察

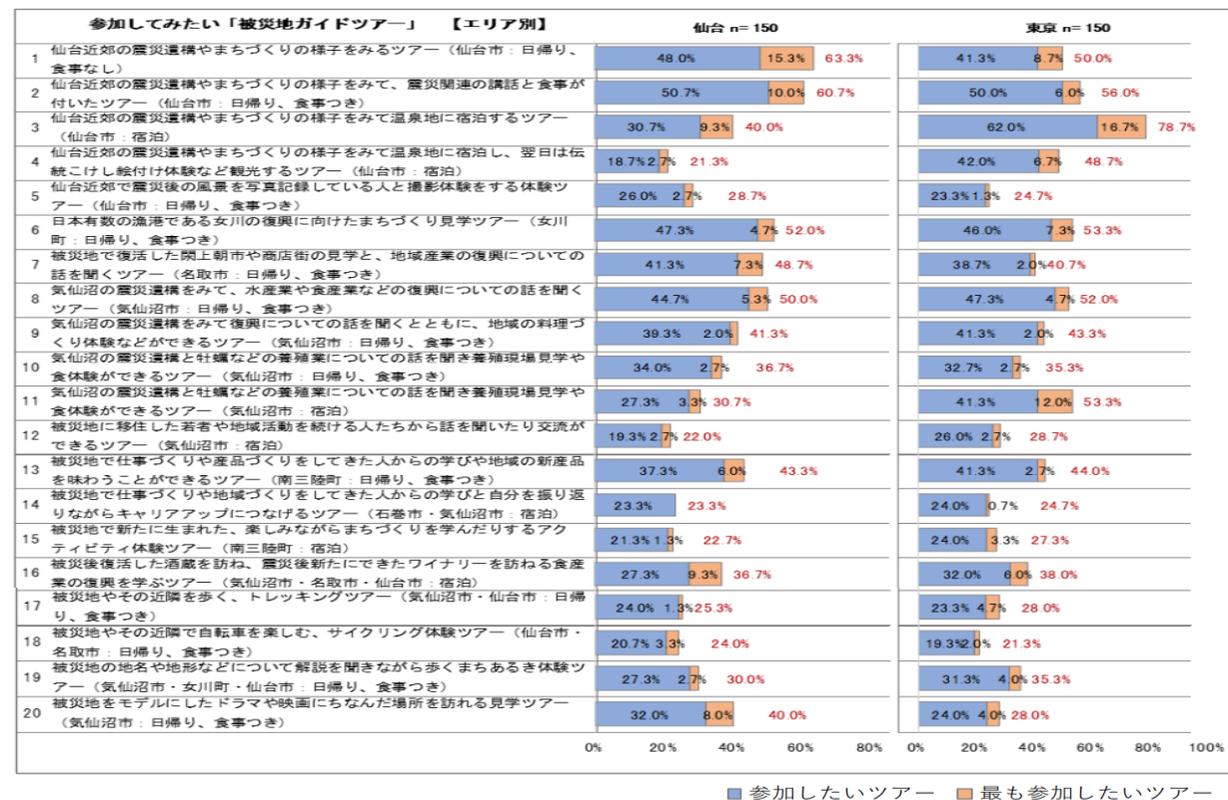
4-1. 東日本大震災の防災ツーリズム市場の調査及び考察(提案書p76-77)

東日本大震災の防災ツーリズムに関するアンケート結果から、観光客のニーズとして名産品や温泉宿泊等、一般的な観光要素も含まれるツアーにニーズがあることが確認された

防災ツーリズムに求めること

- 宮城県民では「被災地の食材や特産品の購入」が 38.2% と最も多く、次いで「防災・減災学習等の学びの場」が 35.4%
- 全国では「被災地の食材や特産品の購入」が 29.3% と最も多く、次いで「復旧・復興の現場の見学」が20.4%、「防災・減災学習等の学びの場」が20.2%

被災地ガイドツアーのニーズ



出典：帝国データバンク「事業継続計画（BCP）に対する企業の意識調査（2023年）」

考察

多くの観光客にとっては、災害の被災地でその地域の復興の学びを得る際には、大都市を拠点に動きたいというニーズ、また特定の被災地への復興のみを学ぶツーリズムというよりも、一般的な観光要素も含まれるツアーの中に、いちコンテンツとして「被災地ガイドツアー」が含まれているものが好まれる傾向にあると考えられる。

4. 関連市場の調査及び考察

4-2. 教育旅行市場の調査及び考察(提案書p79-81)

中・高の教育旅行分類比率及び、新学習指導要領の施行から、フィールドワークや人々との交流機会を有し、探究学習を行うことが可能な防災ツーリズムのニーズは増加傾向にあると考えられる

教育旅行市場におけるトレンド

小・中・高で新学習指導要領が施行され、従来の教育課程における「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に変更されたことを機に、教育旅行で注目されるテーマとして、「探究学習、問題解決型学習」が挙げられており、**教育現場では、教育旅行に探究的な学習を取り入れようとしている学校が増えている**と言われている。

従来は旅行先でのピンポイントの体験プログラムが大半だったが、新学習指導要領施行後の今後の教育旅行の旅先として選択されるためには、**事前事後の学びを含めたフィールドワークや人々との交流など、地域における課題解決につながる「ストーリー」での学びを取り入れることが重要**となる。

考察

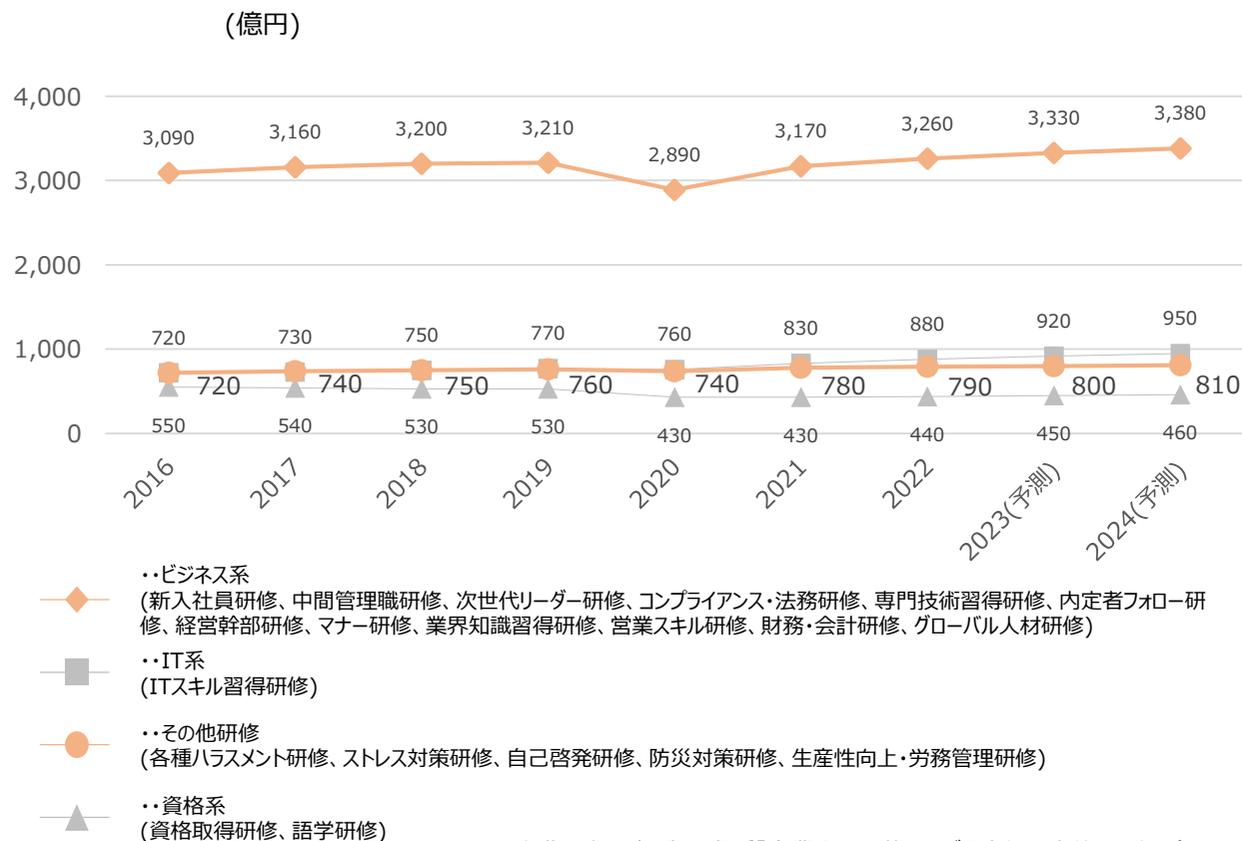
中・高の教育旅行分類比率において2015年に新たに登場した「防災学習」の比率が年々増加傾向であること、新学習指導要領の施行の2点から、**フィールドワークや人々との交流機会を有し、探究学習を行うことが可能な防災ツーリズムのニーズは増加傾向にある**と考えられる。

4. 関連市場の調査及び考察

4-3. 企業研修市場における調査及び考察②(提案書p82-83)

研修形態別市場ではビジネス系研修が大きな割合を占めており、SDGsビジネス市場規模試算では防災インフラ関連の項目が全体の第2位であることから、社会性と事業性を考慮したビジネス系の企業研修にはニーズがあると考えられる

研修形態別市場規模



出典：矢野経済研究所「企業向け研修サービス市場の実態と展望（2023年）」

SDGsビジネス市場規模試算



出典：デロイトトーマツコンサルティング合同会社 HP

考察

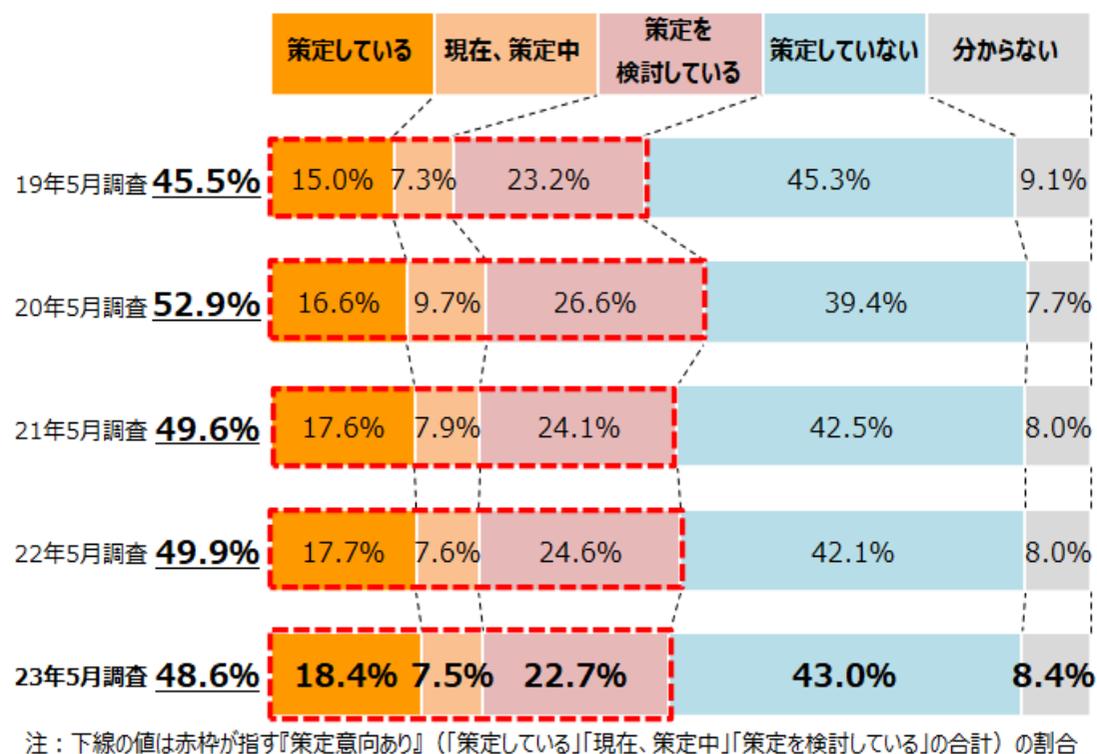
防災対策研修を含むその他研修も微増傾向ではあるものの、市場規模としては**ビジネス系研修が大きな割合を占めており**、SDGsビジネスの市場規模試算では**防災インフラを含む「産業と技術革新の基盤をつくろう」が全体市場規模の第2位であることから、社会性と事業性を考慮したビジネス系の企業研修にはニーズがあると考えられる**。更に災害予測を含む「住み続けられるまちづくり」と災害リスクマネジメントを含む「気候変動に具体的な対策を」の2項目も全体市場規模の3位、4位を占めており、**地域を巻き込んだ事業に関するビジネス系研修も企業のニーズがあるのではないかと考えられる**。

4. 関連市場の調査及び考察

4-4. 企業研修(BCP研修)における調査及び考察①(提案書p84)

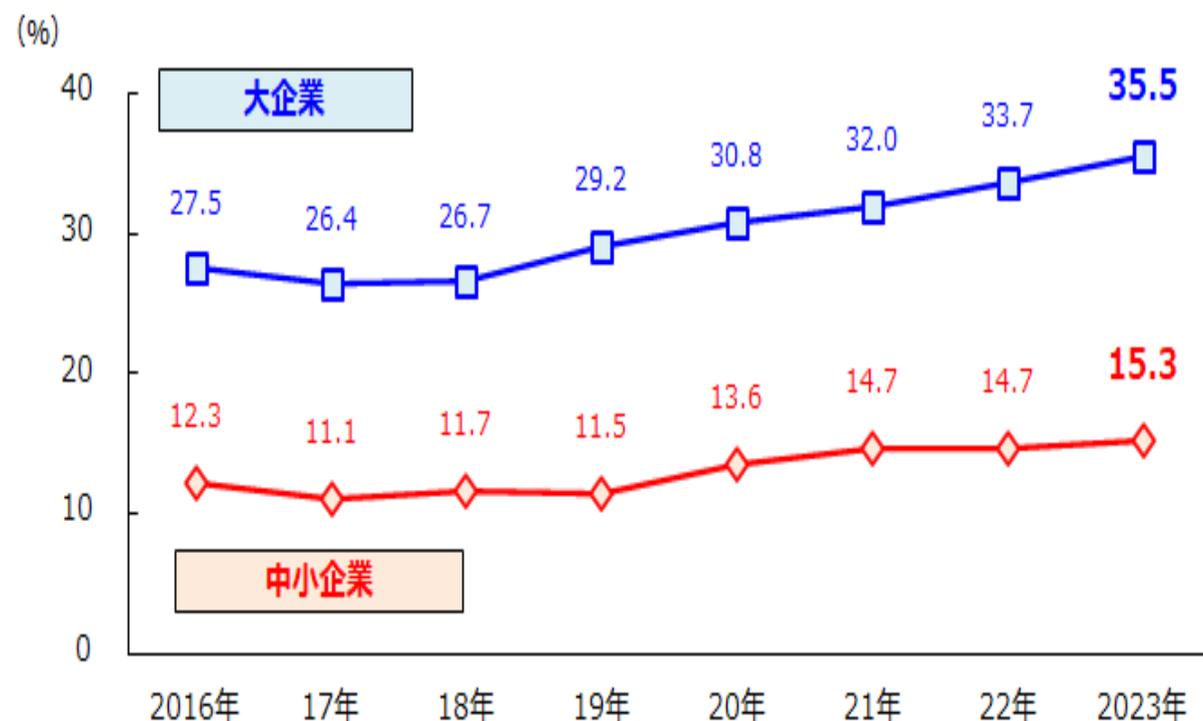
自然災害の激甚化、サプライチェーンの多様化を背景とし、企業のBCP策定率は大企業、中小企業ともに増加傾向にあることからBCPに取り組む企業は今後も増加していくと考えられる

事業継続計画（BCP）の策定状況



出典：帝国データバンク「事業継続計画（BCP）に対する企業の意識調査（2023年）」

企業規模別BCP策定割合推移



出典：帝国データバンク「事業継続計画（BCP）に対する企業の意識調査（2023年）」

考察

自然災害の激甚化やサプライチェーンの多様化を背景として、企業のBCP策定率は年々増加傾向にあり、企業規模別BCP策定率でも大企業、中小企業ともに増加していることから、**BCPに取り組む企業は今後も増加していく**と考えられる。また、割合としては**大企業の方がBCPに取り組む割合が多い**。

4. 関連市場の調査及び考察

4-4. 企業研修(BCP研修)における調査及び考察②(提案書p85)

主体的な策定意向が低い中小企業の一方で、スキル・ノウハウ不足が未策定理由の第一位に挙がる大企業向けにスキル・ノウハウ獲得が可能なツールズの構築が効果的であると考えられる

事業の継続が困難になると想定しているリスク（複数回答）

| | | 2023年5月 | | | 2022年 |
|----|-------------------------------|---------|------|------|-------|
| | | 全体 | 大企業 | 中小企業 | 全体 |
| 1 | 自然災害（地震、風水害、噴火など） | 71.8 | 81.4 | 69.3 | 71.0 |
| 2 | 設備の故障 | 41.6 | 38.4 | 42.5 | 37.6 |
| 3 | 感染症（インフルエンザ、新型コロナウイルス、SARSなど） | 40.4 | 47.6 | 38.5 | 53.5 |
| 4 | 情報セキュリティ上のリスク | 38.1 | 49.1 | 35.2 | 39.6 |
| 5 | 物流（サプライチェーン）の混乱 | 34.7 | 38.7 | 33.7 | 30.4 |
| 6 | 火災・爆発事故 | 34.1 | 38.3 | 33.0 | 32.9 |
| 7 | 自社業務管理システムの不具合・故障 | 32.0 | 38.7 | 30.2 | 30.4 |
| 8 | 取引先の被災 | 31.4 | 31.8 | 31.3 | 26.1 |
| 9 | 情報漏えいやコンプライアンス違反の発生 | 27.0 | 34.7 | 25.0 | 28.9 |
| 10 | 取引先の倒産 | 25.7 | 20.3 | 27.2 | 26.3 |
| 11 | 戦争やテロ | 18.1 | 16.9 | 18.5 | 19.0 |
| 12 | 経営者の不測の事象（経営者自身が被災し出社できないなど） | 17.8 | 13.1 | 19.1 | 17.6 |
| 13 | 製品の事故 | 16.8 | 16.2 | 16.9 | 16.3 |
| 14 | 環境破壊 | 5.5 | 5.6 | 5.5 | 5.4 |
| | その他 | 1.4 | 0.9 | 1.6 | 1.0 |

注1: 網掛けは、「大企業」と「中小企業」の比較で割合が高い規模を示す

注2: 母数は、事業継続計画(BCP)を「策定している」「現在、策定中」「策定を検討している」のいずれかを
選択した企業5,550社

出典：帝国データバンク「事業継続計画（BCP）に対する企業の意識調査（2023年）」

事業継続計画（BCP）を策定していない理由（複数回答）

| | | 2023年5月 | | |
|----|---------------------------------|---------|------|------|
| | | 全体 | 大企業 | 中小企業 |
| 1 | 策定に必要なスキル・ノウハウがない | 42.0 | 47.6 | 41.4 |
| 2 | 策定する人材を確保できない | 30.8 | 36.4 | 30.2 |
| 3 | 策定する時間を確保できない | 26.8 | 32.8 | 26.2 |
| 4 | 書類作りで終わってしまい、実践的に使える計画にすることが難しい | 26.3 | 30.6 | 25.9 |
| 5 | 自社のみ策定しても効果が期待できない | 23.8 | 25.2 | 23.7 |
| 6 | 必要性を感じない | 20.9 | 14.4 | 21.6 |
| 7 | リスクの具体的な想定が難しい | 18.5 | 17.8 | 18.5 |
| 8 | 策定する費用を確保できない | 13.4 | 8.5 | 13.9 |
| 9 | ガイドライン等に自組織の業種に即した例示がない | 4.9 | 4.3 | 5.0 |
| 10 | 策定に際して公的機関の相談窓口が分からない | 3.3 | 1.3 | 3.5 |
| 11 | 策定に際してコンサルティング企業等の相談窓口が分からない | 2.3 | 1.8 | 2.3 |
| | その他 | 3.2 | 2.9 | 3.2 |

注1: 網掛けは、「大企業」と「中小企業」の比較で割合が高い規模を示す

注2: 母数は、事業継続計画(BCP)を「策定していない」企業4,910社

出典：帝国データバンク「事業継続計画（BCP）に対する企業の意識調査（2023年）」

考察

BCPに肯定的な企業のうち、71.8%が事業継続上のリスクを「自然災害」と回答したことから、BCP=自然災害対策と捉える企業が多いと考えられる。また、BCP未策定企業の策定に向けた課題として、大企業ではスキル・ノウハウ不足が課題と挙げられ、中小企業では策定意向そのものが低い傾向にあることから、**大企業向けに他企業のBCP取組を学ぶことでスキル・ノウハウを獲得できるツールズの構築が効果的である**と考えられる。サプライチェーンの観点では中小企業の策定率は大企業に紐づく想定されるため、**大企業に優先的にアプローチすることで中小企業への波及も図れるのではないかと**考えられる。

4. 関連市場の調査及び考察

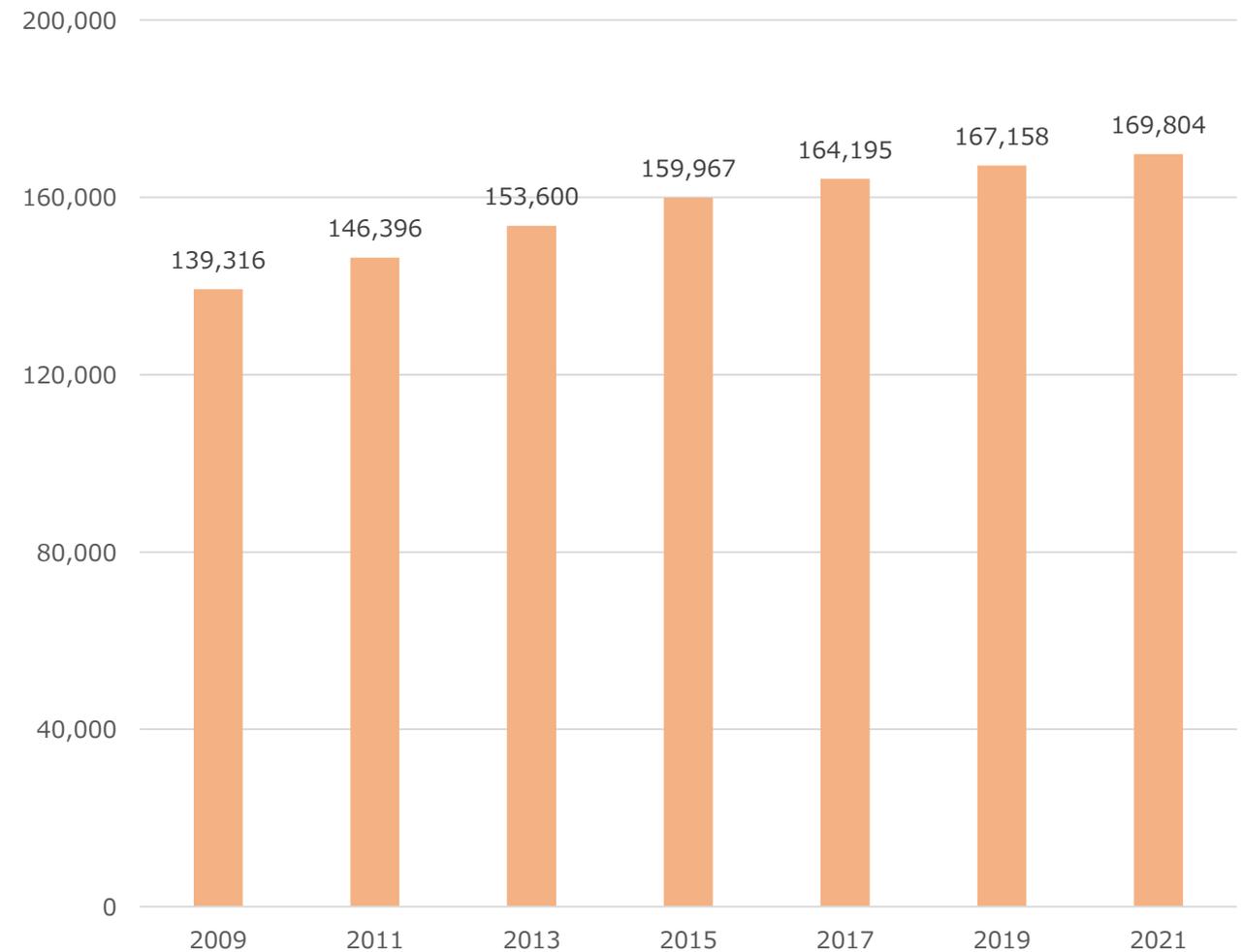
4-5. 行政研修における調査及び考察(提案書p86-87)

自治体視察数TOP30のうち、「防災・復興関連」と「まちづくり関連」の視察数が約33%を占めること、自主防災組織である自治会の数が増加しており、防災関連視察事例も確認されることから双方の視察ニーズは存在すると考えられる

2023年自治体視察数TOP30

| 順位 | 視察先名称 | 自治体名 | 視察数 | 分類 |
|----|--------------------------|-----------|-----|-------------|
| 1 | 地域包括ケア 豊明モデル | 愛知県豊明市 | 144 | 福祉 |
| 2 | 関ヶ原古戦場記念館 | 岐阜市 | 82 | 歴史・芸術・文化 |
| 3 | オーガプロジェクト関連視察研修 | 岩手県紫波郡紫波町 | 77 | まちづくり |
| 4 | 常石ともに学園 | 広島県福山市 | 73 | 教育 |
| 5 | 書かないワンストップ窓口 | 北海道北見市 | 65 | DX |
| 6 | 草潤中学校視察 | 岐阜県岐阜市 | 60 | 教育 |
| 7 | バイオエネルギーセンター | 東京都町田市 | 57 | 環境 |
| 8 | 武雄市図書館・歴史資料館 | 佐賀県武雄市 | 57 | 歴史・芸術・文化 |
| 9 | 高尾山学園及び適応指導教室 | 東京都八王子市 | 48 | 教育 |
| 10 | 文化創造拠点シロウス | 神奈川県大和市 | 46 | 歴史・芸術・文化 |
| 11 | 佐賀市上下水道局 | 佐賀県佐賀市 | 44 | 環境 |
| 12 | 校内フリースクール「F組」 | 愛知県岡崎市 | 43 | 教育 |
| 13 | 福島ロボットフィールド | 福島県 | 42 | インフラ・防災・復興 |
| 14 | 石川県立図書館 | 石川県 | 42 | まちづくり |
| 15 | チョイソコとよあけ事業 | 愛知県豊明市 | 38 | まちづくり・MssS |
| 16 | 震災遺構仙台市立荒浜小学校 | 仙台市 | 37 | 防災・復興 |
| 17 | 人と防災未来センター | 兵庫県 | 37 | 防災・復興 |
| 18 | 自動運転実証実験 | 三重県四日市市 | 35 | テクノロジー |
| 19 | コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育 | 東京都三鷹市 | 33 | 教育 |
| 20 | 熊本城公園 | 熊本県熊本市 | 33 | 防災・復興 |
| 21 | ウォークアブル推進の取組 | 兵庫県姫路市 | 31 | まちづくり |
| 22 | 官民共創スペースNETSUGEN | 群馬県 | 30 | イノベーション |
| 23 | マイタク | 群馬県前橋市 | 30 | 福祉 |
| 24 | GIGAスクール構想に係る内容について | 埼玉県戸田市 | 30 | 教育 |
| 25 | 多世代交流施設「おひさまテラス」 | 千葉県旭市 | 30 | 子育て・まちづくり |
| 26 | 子供・若者総合支援センター | 岐阜県岐阜市 | 30 | 教育 |
| 27 | としまどりの防災公園 | 東京都豊島区 | 29 | 防災・復興・まちづくり |
| 28 | 第39回全国都市緑化北海道フェア | 北海道恵庭市 | 28 | まちづくり |
| 29 | ボールパーク構想推進事業、誘致の取組について | 北海道北広島市 | 28 | まちづくり |
| 30 | 成田市公設地方卸市場 | 千葉県成田市 | 27 | 流通 |

自治会(自主防災組織)数推移



出典：内閣府「令和4年版防災白書（2022年）」

考察

全国自治体の視察数上位30位のうち、**本ツーリズムの提供価値と類似する「防災・復興関連視察」、「まちづくり関連視察」が総視察数の約33%を占めており、自治体における視察ニーズが存在すると考えられる。**

総務省において「自主防災組織」として位置づけられている**自治会の組織数は年々増加傾向にあり、能登半島地震以降も自治会の防災関連視察が確認されたことから、自治会における視察ニーズは存在すると考えられる。**

アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源整理及び考察

4. 関連市場の調査及び考察

5. 防災・復興資源の活用戦略

6. アクションプラン

5. 防災・復興資源の活用戦略

5-1. 兵庫県における防災・復興ツーリズムの定義(提案書p88)

兵庫県における防災・復興ツーリズムは以下のテーマ・ゴール・方針で活用戦略を描くものとする

① テーマ

県内の防災関連資源（防災学習施設、防災拠点施設、震災遺構等）と観光資源を通じて、**地域の魅力を体験すると同時に、命を守る知識や取組を学び、防災意識の底上げ**に寄与することをテーマとする。

② 目指すべきゴール

防災・復興関連資源での観光体験を通じ、交流人口の拡大を端緒とした多くの**「人」と「防災・復興」、そして「兵庫県」との三者の持続的なつながり**ができている状態を目指すべきゴールとする。

③ ゴールに向けた方針

一過性の「物見遊山」に終始することがないように、下記を目指すべきゴールに向けた方針とする。

- 兵庫県の地域資源を活かし、ツーリズムを超えた**「感動価値の創出」**及び、学びを超えた**「兵庫県のファン醸成」**
- 復興・防災ツーリズムを通じて得た**学びのアウトプット機会提供**及び、関係人口同士が**つながることのできるコミュニティ形成**

5. 防災・復興資源の活用戦略

5-2. 兵庫県における防災・復興ツーリズムの促進手法コンセプト(提案書p88)

兵庫県における防災・復興ツーリズムの促進においては「地域資源や人を学びで”つなげる”仕組みづくり」をコンセプトとし、活用戦略を描くものとする

コンセプト

地域資源や人を「学び」で”つなげる”仕組みづくり

防災・復興ツーリズムを促進し、創造的復興を成し遂げるために、下記の「仕組み」を構築する：

- ①各資源をテーマで”つなげた”学びと旅の楽しさの両立。
- ②地域資源を”つなげた”面的な防災・復興ツーリズムの実現。
- ③人の思いを”つなげた”、過去と未来への想いを共有する”コミュニティの形成”。

5. 防災・復興資源の活用戦略

5-3. 中高生の修学旅行・教育旅行ターゲットのテーマ(提案書p89)

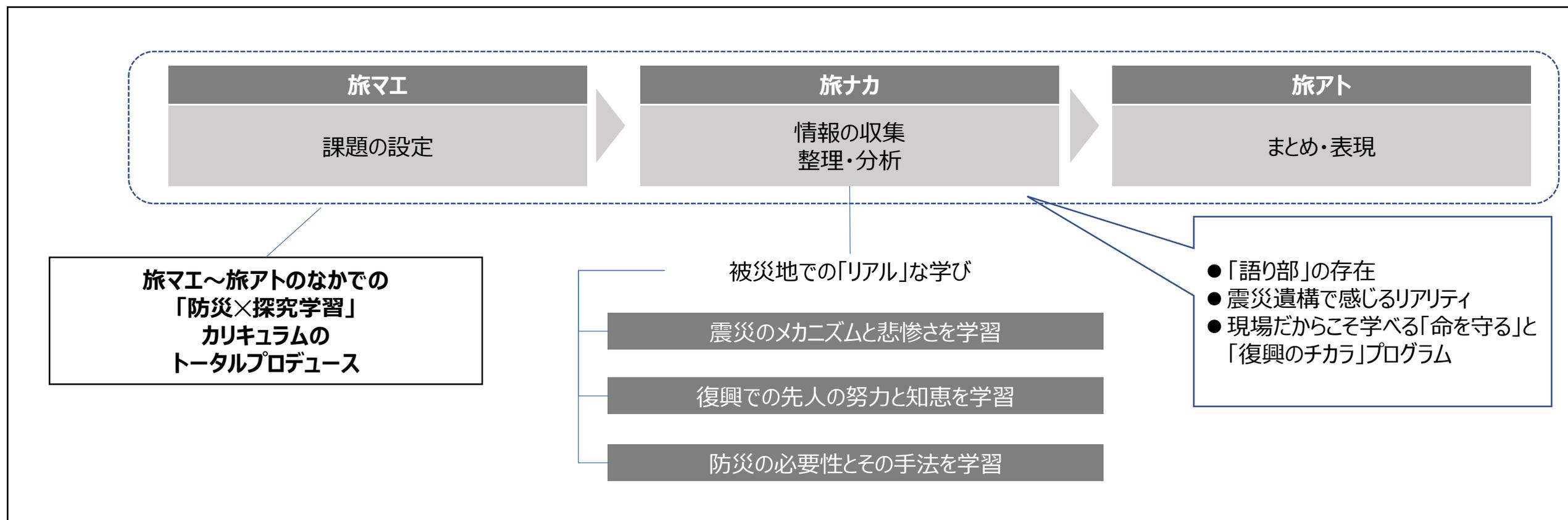
中高生の修学旅行・教育旅行のテーマは、市場調査の考察に倣い、フィールドワークや人々との交流機会を有し、探究学習を行うことが可能な防災ツーリズムの構築をテーマとする

[ターゲット1]中高生の修学旅行、教育旅行

ターゲットテーマ：「探究学習のテーマ解決と防災・復興ツーリズムの融合」

…探究学習とは、自ら問いを立てて、それに対して答えていく学習のことを指す。まさに「生きる力を育む教育」であるともいえる。それと防災・復興学習とを融合させることで、防災意識を高め、命を守る知識を学ぶことができる。

図 防災・復興ツーリズムにおける探究学習概念



5. 防災・復興資源の活用戦略

5-4. 企業・行政研修ターゲットのテーマ(提案書p90)

企業・行政研修は防災・復興やまちづくり、BCPなど目的別にテーマが異なるため、BCP、CSR、まちづくり、MICEの4分類に細分化し、目的に適したテーマを設定する

[ターゲット2]企業・行政研修

ターゲットテーマ：「被災地を学びの場としたニーズ対応型ラーニング」

…地域で連携して復興に携わった企業・行政等の主体との対話や地域の震災の教訓と記憶を「見て」「聞いて」「考える」、「対話型」アクティブラーニングの場を創出。企業・行政のなかでも対象によってそのテーマは異なるため、類型化したプログラムをベースに、ニーズに応じたモディファイを加えることで、オンデマンド型とすることが望ましい。

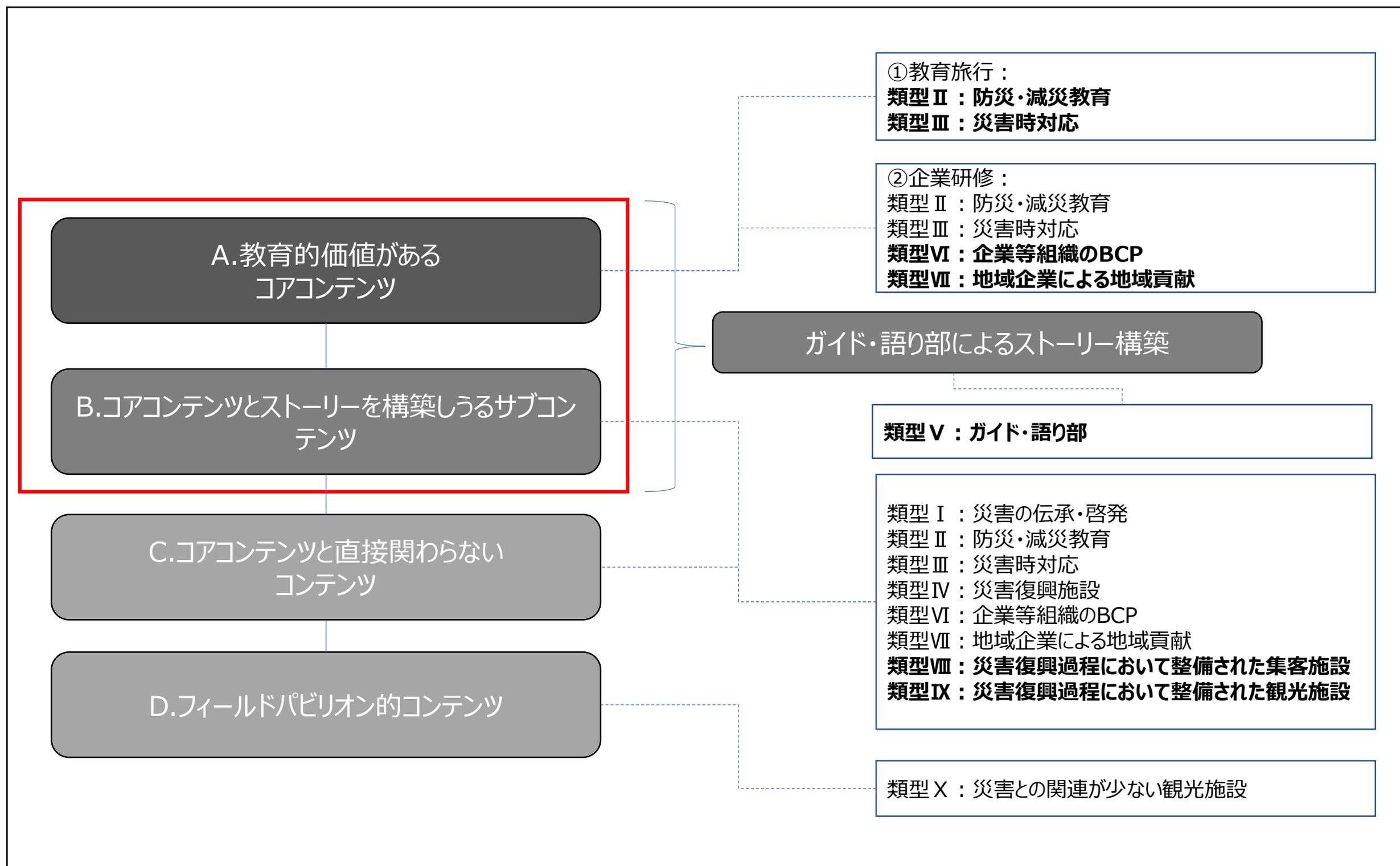
表 企業等組織を対象とした防災・復興ツーリズムにおけるターゲット類型化

| <ターゲット> | <類型化するプログラムの考え方> |
|----------------------|--|
| 2-A. 企業・行政の危機管理担当 | …災害時における企業・行政の危機管理の直面した危機や対応策、留意点等の現場を体感し、そのマネジメント手法と課題を学ぶBCP研修の防災ツーリズム市場は未開拓であるといつてよい。未曾有の都市型災害を経験した兵庫県だからこそ、BCPの必要性和運用の重要性、さらには様々な業種にも通じる災害からの復興を支えたビルドバックベター精神、レジリエンスの理念の獲得を促し、当該新市場開拓を目指す。 |
| 2-B. 企業のCSR担当 | …災害発生時における企業における避難支援、また復興時において企業が行った地域支援の事例を目の当たりにすることで、企業が関わるべき地域防災の手法を学ぶ。 |
| 2-C. まちづくり分野の行政／大学ゼミ | …復興の過程において、地域住民や地域企業が丸となって復興と災害に強いまちづくりに携わった現場とその手法を学ぶことで、復興まちづくりの手法を学ぶ。 |
| 2-D. 学術的専門家 | …防災まちづくり、震災復興等の分野や、地震発生物理学、強震動地震学、地球内部物理学等地震学の専門家に対する視察や、同分野のMICEにより集まった専門家集団のエクスカージョン・プログラムに活用。 |

5. 防災・復興資源の活用戦略

5-5. 資源利活用の方向性(提案書p91)

本ツーリズムでは教育的価値のあるコンテンツを核に、ストーリーを構築しうるサブコンテンツと組み合わせ、そのストーリーをスルーガイドが補完することでのつながりの創出を目指す



5. 防災・復興資源の活用戦略

5-6. ガイド・語り部と対応方針(提案書p94)

ガイド・語り部には「担い手の数の問題」そして「水準の問題」の課題があり、持続的に育成を進めていく必要がある。また全体を通じたガイドによりストーリーを語るスルーガイドが有用であり、「スルーガイドとスポットガイドを上手く使い分けること」が重要である。

課題

対応方針

① スポットガイド：語り部/専門ガイドの育成

- 「ひょうご防災リーダー」を専門ガイドとして育成する「災害対策キュレーター（仮称）養成講座」と銘打って、「兵庫県広域防災センター」の宿泊施設を活用するなどして、スペシャリストの育成を行うことが考えられる。
- 震災を経験していない高校生、大学生、専門学校生たちを中心とした「あすパ・ユース震災語り部隊」は、地域の被災経験者から被災の際の話を聞き取るなどして交流を行っている。その他の語り部団体の被災者と、震災を経験していない若者の交流イベントを創出することが有効

② スポットガイド：企業・組織毎に育成されたガイド/経験者・専門家によるガイドの育成

- BCP策定企業や企業の社会貢献として防災・復興に取り組む企業においては、すでにそうした担当者が企業内部にいる前提となる。また、それぞれのスポットには、それに対応したスポットガイドがいることがほとんどであろう。そうしたなかでより「深い」レベルの示唆を与えるとするならば、そうした専門家によるネットワークを構築することで、それぞれの語りの学びを創出

③ スルーガイド：防災専門/観光スルーガイドの育成

- 観光ガイドをスルーガイドとして養成する場合には、「観光ガイド向けスルーガイド養成講座」の開設、スポットガイドをスルーガイドとして養成する場合には、ストーリー集を教材として作成したうえで、「スポットガイド合同研修」を開設

5. 防災・復興資源の活用戦略

5-7. リサーチツアーの概要(提案書p98)

リサーチツアーは以下の概要に基づき、実施したものとする

| | |
|-------|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> 現状の防災ツーリズムの考え方に対し、現場体験を通じて得た地域の考え、想い等を反映させ、よりマーケットニーズにマッチする旅行商品化へ必要な項目の洗い出し、市場化に向けた課題等の検証を行うことを目的とする。 |
| ターゲット | <ul style="list-style-type: none"> 「令和5年度防災ツーリズム戦略立案業務委託仕様書」に則り、前述ターゲットの通り、中高生の修学旅行・教育旅行と企業・行政研修をターゲットとする。 |
| 参加者 | <ul style="list-style-type: none"> リサーチツアーの目的に則し、マーケットニーズに精通する当社、商品造成部門の社員を参加者とする。 阪神エリアリサーチツアーにおいては上記に加え、学生も参加者とする。 |
| 対象資源 | <ul style="list-style-type: none"> 「令和5年度防災ツーリズム戦略立案業務委託仕様書」に則り、「防災ツーリズムで活用を想定する主な防災関連資源」及び、フィールドパビリオンに含まれる資源、その他被災地経験やBCP取組事例を有し、フィールドワークに活用できる資源をリサーチツアーの対象資源とする。 |

5. 防災・復興資源の活用戦略

(参考) リサーチツアーの実施内容(提案書p93)

リサーチツアーは以下の内容で実施したものとする

阪神エリア

豊岡エリア

| 日次 | 月日曜 | 行程 | 食事 |
|----|------------|--|-------------------------------|
| 1 | 2/7 (水) | 三ノ宮駅 …… 人と防災未来センター(語り部) …… 山田錦の館(昼食)・ 9:30 10:00 12:00 12:45 13:45 …… 兵庫県広域防災センター(体験) …… E-ディフェンス …… 14:15 15:45 15:50 16:50 …… 三ノ宮駅 17:20 兵庫県広域防災センターにて各種防災体験 ・ガイダンス 14:20~14:40 ・起震車体験(3D体験) 14:50~15:10 ※同時に4名(回/5分) ・煙避難体験 15:15~15:45 | 朝: - 昼: ○ 夕: - |
| 2 | 2/8 (木) | ホテル・ 大学生との震災地フィールドワーク<B&Sプログラム>※新長田1番街商店街など (10:00~12:00) 9:30 ※業務用井戸水が被災者への給水源となったストーリーの紹介 …… 新長田商店街(自由食) …… 灘五郷:菊正宗酒造 …… 三ノ宮駅 解散 12:00 13:00 13:30 14:30 16:00 | 朝: - 昼: - 夕: - |

| 日次 | 月日曜 | 行程 | 食事 |
|----|-------------|--|-------------------|
| 1 | 2/15 (木) | 三ノ宮 …… 豊岡町震災・水害復興に係る歴史とまちづくり(講和:11:00~12:00) 8:30 11:00 …… 豊岡町復興遺産散策(旧役場等・散策後自由食) …… 12:00 14:00 ~ひょうごフィールドパビリオン~ ~湿地帯の特徴を見る~ …… コウノトリの郷公園(見学・解説) …… 玄武洞公園 …… ホテル 14:15 15:00 15:15 16:00 ★宿泊/豊岡スカイホテル | 朝:- 昼:- 夕:- |
| 2 | 2/16 (金) | ~震災復興とまちづくりについて~ ホテル …… 城崎文芸館 …… 語り部と巡る城崎まち歩き …… 9:00 9:30 …… 城崎文芸館会議室(講和) …… 城崎温泉街(自由食) …… 三ノ宮 11:00 12:30 14:00 16:30頃 北但震災100年プロジェクトについて | 朝:○ 昼:- 夕:- |

5. 防災・復興資源の活用戦略

5-8. リサーチツアーから導出される課題及び、活用方策(提案書p104)

阪神エリア・豊岡エリアともに活用資源は特段の問題がなかった一方で、資源のつなぎ方や巡らせ方に課題が確認された。また、今後想定される課題として、継続的な参加の促進、デジタル利活用、エリア特性の活用等が確認された

| | 発見・課題 | 活用方策 |
|-------|--|--|
| 共通 | <ul style="list-style-type: none"> • <u>資源の組み合わせの相乗効果</u> | <ul style="list-style-type: none"> • 各資源単体ではなく、ツアー全体としての体験価値向上を目指し、<u>相乗効果に配慮した地域資源の組み合わせ方が必要</u>であると想定される。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> • <u>受入キャパシティ対策</u> | <ul style="list-style-type: none"> • <u>体験価値を低下させないツーリズム構成とガイド・語り部の確保、キャパシティを超過しない班別行動を行うことが多い中学校の積極的誘致が必要</u>であると想定される。 • 企業・行政研修においては、<u>カンファレンス及び、その後の目的別エクスカーション促進による人数分散が必要</u>であると想定される。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> • <u>一過性で終わらぬ誘客の仕組みづくり</u> | <ul style="list-style-type: none"> • 参加者考案ツアーの募集やコンテストの開催を通じて、継続的に防災ツーリズムへ参加する意味付けを行い、<u>一過性の旅行ではなく、継続的な参加を促す取組が必要</u>であると想定される。 |
| 阪神エリア | <ul style="list-style-type: none"> • <u>デジタルの利活用</u> | <ul style="list-style-type: none"> • メタバースやAR、VR等のデジタルを利活用し、<u>旅マエ、旅ナカ、旅アトそれぞれの体験価値向上を目指す必要がある</u>と想定される。 |
| 豊岡エリア | <ul style="list-style-type: none"> • <u>エリア特性を活かした誘客の仕組みづくり</u> | <ul style="list-style-type: none"> • 豊岡、城崎における地域版BCPの取組を行政だけのものとせず、企業や大学等を絡めたMICEの開催を促進することで、<u>産学官連携の取組へ昇華させ、関係人口の増加を図る必要がある</u>と想定される。 |

5. 防災・復興資源の活用戦略

5-9. ツアーコース案(提案書p105-106)

リサーチツアーの課題を踏まえ、阪神エリアでは資源活用順序の改善及び、比較的受入キャパシティの大きな資源の採用を行い、豊岡エリアでは地域特性を活かすべくエクスカージョンとして活用するコース案を作成した

中高生の修学旅行、教育旅行（阪神エリア）

- 商品概況**
- 三木総合防災公園での「震災サバイバルキャンプ（仮称）」及び兵庫県防災センターでの震災体験学習をコアコンテンツとした、「災害から生き抜く力を身に着ける」探究型学習プラン
- 訪問先**
- （1日目）兵庫県防災センター（起震車体験・煙避難体験）
→E-ディフェンス 訪問（視察・VR見学）
→三木総合防災公園 訪問（昼食・震災サバイバルキャンプ（仮称））
（→神戸市街観光）
（→宿泊）
 - （2日目）新長田商店街 訪問（まちあるき、日本ケミカルシューズの講話等）
→人と防災未来センター 訪問
→旅程終了
- 実施の際の課題**
- 「震災サバイバルキャンプ（仮称）」プログラムの造成
 - 探究学習事前・事後プログラムの造成
 - 震災サバイバルキャンプを中心としたスルーガイドの確保・育成

企業・行政研修（豊岡エリア）

- 商品概況**
- 高い自治意識や未来に向けたまちづくり、コウノトリの郷公園のようにサステナブルな取組を行っている特性を活かした、エクスカージョンとして復興まちづくりやコウノトリの郷公園でのサステナブルな取組等を学びつつ、城崎温泉街での観光も絡めたプラン
- 訪問先**
- （1日目）カンファレンス
豊岡町震災・水害復興に係る歴史とまちづくり（講話）
→豊岡町復興過程散策
→コウノトリの郷公園見学
（→城崎宿泊）
 - （2日目）語り部と巡る城崎まちあるき
→北但震災100年プロジェクトについて（講話）
（→城崎観光）
→旅程終了
- 実施の際の課題**
- 探究学習事前・事後プログラムの造成
 - 豊岡観光ガイドも絡めたスルーガイドの確保・育成
 - 宿泊施設のキャパシティ

<震災サバイバルキャンプ（仮称）のイメージ>

| コンテンツイメージ | 防災教育効果 |
|---------------|--------------------|
| 防災アイテムを使ったゲーム | →防災アイテムの使い方学ぶ |
| ロープワーク体験 | →避難時のロープワークを学ぶ |
| BBQとポリ袋クッキング | →火起こし、焚火の基礎、非常食の確保 |



出所：「せんだいタウン情報誌 MACHICO」

<リサーチツアーからの改善点>

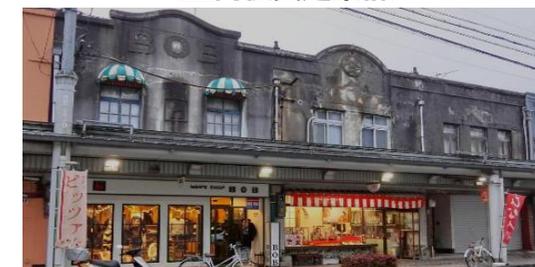
- 人と防災未来センターの活用順序
 - 内容充実度が高く、後続資源との組み合わせが困難である人と防災未来センターを、震災学習について体系的に学ぶ出発点としてではなく、防災ツーリズムを通じて学習した内容の点と線を繋げる最終地点として活用することで、**各資源への興味関心を維持しつつ、最終的にすべてが防災に繋がっているという体系的な学習の演出が可能と見込まれる。**
- 三木総合防災公園の活用
 - 比較的受入キャパシティが大きく、非常時の防災倉庫・避難場所としての機能を有する三木防災公園で観光要素も併せ持つサバイバルキャンプを行うことにより、**兵庫県広域防災センターでの体験を楽しみながら身近に感じる体験へ昇華させ、学びの相乗効果が見込まれる。**

<コアコンテンツのイメージ>

<城崎温泉街>



<豊岡復興建築群>



<リサーチツアーからの改善点>

- エクスカージョンとしての活用
 - 高い自治意識、コウノトリの郷公園等サステナブルな取組の歴史、未来に向けたまちづくりへの取組等がある地域特性から、シームレスな防災に繋がる企業価値(商品、サービス)の向上を目的に、地域を巻き込んだ産学官連携を行う**カンファレンス的なエリアとしての活用が可能と見込まれる。**また、**エクスカージョンとして活用することで目的別に巡らせ方を変化させることができ、キャパシティ問題解決への寄与も見込まれる。**
- 城崎温泉の宿泊活用
 - 東日本大震災の市場調査から、県外観光客の参加してみたい被災地ガイドツアーとして「近郊の震災遺構やまちづくりの様子を見て、温泉地に宿泊するツアー」が最も得票数が多いことを考慮し、**宿泊施設として城崎温泉街を活用することで、ツーリズムとしての満足度向上が見込まれる。**

アジェンダ

0. 事業概要

1. 本業務の進め方

2. 他地域における事例整理

3. 兵庫県下の防災・復興資源整理及び考察

4. 関連市場の調査及び考察

5. 防災・復興資源の活用戦略

6. アクションプラン

6. アクションプラン

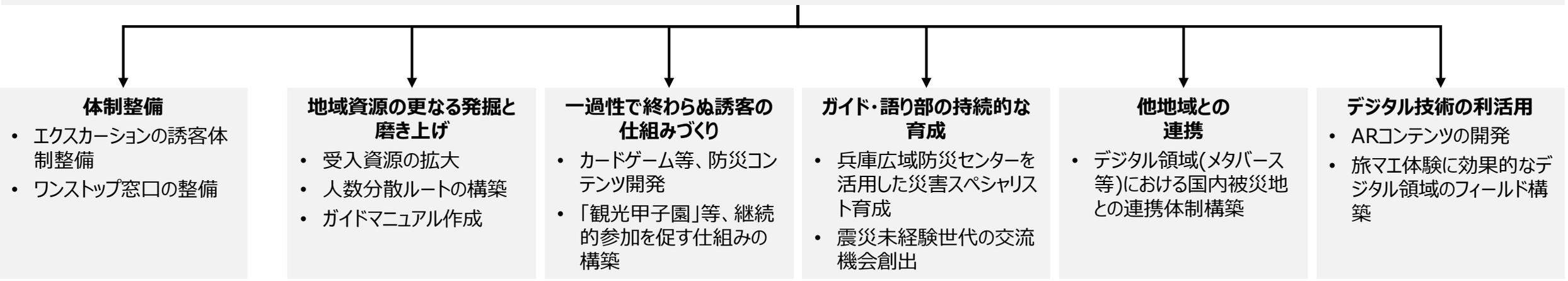
6-1. 市場化に向けたアクションプラン(提案書p110)

本提案書では東日本大震災との比較、関連市場調査、リサーチツアーからテーマ、ターゲットの定義を設定後、市場化に向けて、ターゲットに対する6つの戦略と中長期的な一般観光客の取り込みを見据え、2つの戦略を描く

| | | |
|--|--|--|
| <p>東日本大震災と兵庫県の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> 兵庫県の強みと現状の弱み 資源活用における課題 | <p>関連市場調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の防災ツーリズム市場 教育旅行市場 企業・行政研修市場 | <p>リサーチツアー</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象資源及びリサーチツアーの評価 活用方策 |
|--|--|--|

テーマ：観光の魅力波及×防災意識向上

| ターゲット | テーマ | |
|-----------------|------------------------|--|
| 中高生の修学旅行・教育旅行 | 探究学習のテーマ解決と防災ツーリズムの融合 | 「防災・減災教育施設」、「災害時対応施設」をメインコンテンツとした探究学習プログラムの構築 |
| 企業・行政の危機管理担当 | 被災地を学びの場としたニーズ対応型ラーニング | 企業等組織のBCPをメインコンテンツとし、BCP導入合同研修とを組み合わせたパッケージプログラムを開発 |
| 企業のCSR担当 | | 「企業による社会性と事業性のある活動」に繋がる体験をメインコンテンツとし企業のCSRから入る次代に相応しい地域貢献と事業性のある活動への繋がり学ぶプログラム |
| まちづくり分野の行政/大学ゼミ | | 「防災減災教育施設」、「災害時対応施設」「企業による地域貢献」をメインコンテンツとし、防災まちづくりや復興の在り方を学ぶプログラムを構築 |
| 学術的専門家 | | 豊岡地区・神地区で行われるMICEエクスカージョンとしての専門的なプログラム |



6. アクションプラン

(参考) ターゲット拡大に向けた取組(提案書p108)

関係人口増加の実現及び、ツーリズムとしての経済波及効果増進の為に、中長期的には一般観光客へのアプローチも必要になると想定される。よって、以下には中長期的な一般観光客に対するアクションプランを描く

| | |
|-----------------------------------|---|
| <p>シームレスな 資源の発掘、 磨き上げ</p> | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に防災を学ぶ意欲のない参加者が、無意識化で防災について学ぶことの出来るツーリズム構築を目的として、娯楽性の高い観光行動の中でも、シームレスに防災に触れることが出来る仕掛けを構築する必要があると想定される。 旅マエの体験価値向上及び、誘客強化を目的に、Webサイトやメタバース等で、防災ツーリズムコンテンツをシームレスに体験することが出来る仕掛けを構築する必要があると想定される。 |
| <p>インバウンド受入 への対応</p> | <ul style="list-style-type: none"> 2024年6月開催予定の「世界銀行防災グローバルフォーラム」や2025年開催予定の「大阪・関西万博」等、国際的なカンファレンスが複数予定されている。 参加者のエクスカージョンとして誘客を狙うプロモーションや地域資源・ガイドの多言語化が必要と想定される。 |

市場価値の獲得と仕組みの自走化

- 防災・復興ツーリズムがマーケットで受け入れられ、ビジネスとして定着させることが、自立的・自律的に自走化を図るうえで必須であるといえる。

経済波及効果の増進

- 根本的なツーリズム単体としても、観光客に魅力的に映る旅行商品を造成することで、経済波及効果の増進を目指す。

(仮称) 創造的復興版・関係人口の増加

- 阪神・淡路大震災という大都市圏での甚大災害経験、それに伴う独自の地域資源を有する兵庫県だからこそ可能な、「防災意識の向上及び防災について考える人の増加」と「兵庫県防災（創造的復興）に関わる人の増加」の2つの実現を目指しうる。
- これらの両立をもって、防災・復興ツーリズムによる「関係人口の増加」がなし得ると捉える。

6. アクションプラン

6-2. 中長期ロードマップ(提案書p109)

2025年度までの実現が現実的ではないデジタル領域での相互送客やガイドの持続的な育成等は市場化以降も継続してPDCAを回し、改善していく必要があると考えられる

